

特集 なぜ 今「ごみ減量20%」か？



■**ごみの行方**
 あなたが出したごみは、どこへ行くのか、考えたことはありますか？
 安城市のごみは「燃やせるごみ(可燃ごみ)」「燃やせないごみ

(不燃ごみ)」「プラスチック製容器包装」「資源ごみ(びん・缶)」などの数種類に分別されています。
 この中で「プラスチック製容器包装」や「資源ごみ」は再資源

三つのごみ問題

化が可能です。しかし「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」は、焼却や破碎処理の後に残ったものを処分する必要があります。
 この処分に安城市の抱える問題があるのです。

三つの問題

安城市には、大きく分けて三つのごみ問題があります。一つ目の問題は、焼却施設。ごみの増加により、安城市の焼却施設、環境クリーンセンターへ負担がかかっています。二つ目が、埋め立て地の問題。安城市から出た焼却灰の埋立場、衣浦湾沖の人工島「衣浦ポートアイランド」での埋め立てが、間もなく終了します。そして、最後の問題が、ごみ処理にかかる費用です。これらの問題は、ごみの量が増えるほど、より深刻になります。今、安城市でごみ減量20%が必要な理由は、ここにあるのです。

ごみ問題は全国でも

安城市に限らず、ほかの自治体でも、ごみ問題に悩まされ、その減量に取り組んでいます。

中でも、特に先進的な事例として知られているのが、名古屋市のケースです。平成11年に名古屋市の場合は、次期埋立処分場の計画を断念しました。それは、候補地であった藤前干潟を環境破壊から守るための決断でした。

しかし、今の処分場の寿命はもうすぐ、このままではごみがあふれかえってしまう。そこで、同市は、ごみ非常事態宣言を発表し、市民にごみ減量を呼びかけたのです。結果、1年で10万トン(全市全体の10%)のごみを減量することに成功。その後も取り組みを進め、3年後にはピーク時の4分の3程度まで減量することができました。

ごみ減量への挑戦

東京都日野市の場合

不燃ごみ量・リサイクル率地区ワースト1→「ごみ改革」を実施。収集方式の見直しや有料化により減量を進めた。

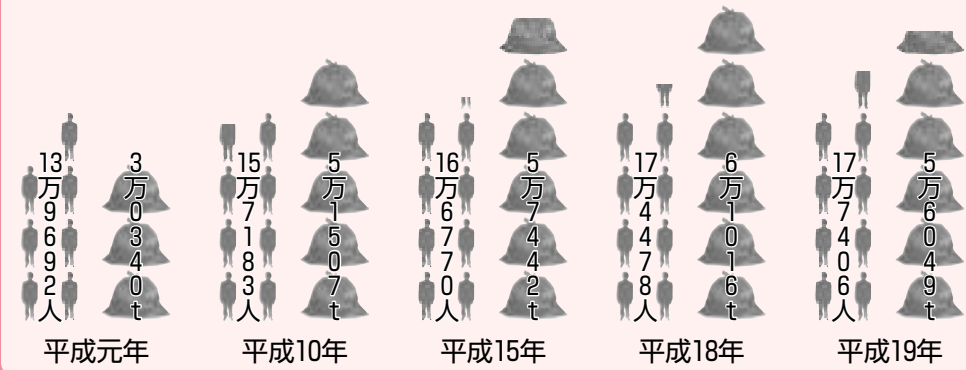
岐阜県多治見市の場合

ベッドタウン化による人口の急増でごみ量も増加→有料化に加え、分別の細分化を実施し、減量を進めた。

20年で約2倍に…

人口 = 2万人 ごみ袋 = 1万トン

人口の伸び率以上に、ごみ量が増えてしまっている。



■**20年でなんと2倍に**
 昨年の焼却ごみ搬入量は、約5万6,000トン。対して、平成元年は、3万トン。なんと、この20年間でごみの量は2倍近く増えている計算になります。

歴史は繰り返す？

今からおおよそ30年前、安城市は深刻なごみ問題を抱えていました。その様子を、当時の広報あんじょうは、このように伝えています。
 『「ゴミ戦争」もうごめんだ』



“ゴミ戦争”もうごめんだ



かつて安城を襲った危機「ゴミ戦争」。当時の広報あんじょうでも、市民にごみ減量を訴えている。(昭和48年7月1日号広報あんじょうより)

「戦争」という表現が出るほどの問題とはどのような状況だったのでしょうか。同記事には「ゴミの量は5年前の2倍―これから先いつたいどれくらいふえるか、ちよつと見当が付きません」とあります。幸い、その後の10年間でごみ量は減少。安城市は危機を脱しました。
 それから20年、再びごみは増えつつあります。安城市の「ゴミ戦争」は、まだ終わっていないのです。

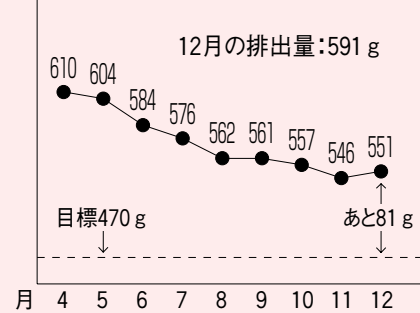
ちよつとごみが
増えちゃったよう



木原百香ちゃん(赤松町)

ただし、12月は11月よりもごみが増えてしまいました。目標まであと81gです。達成めざしてがんばっていきましょう。

平成20年4月からのごみ排出量平均値(単位:g)



長期的には増え続けているごみですが、この2年間に限れば減少傾向にあります。これは、皆さんのごみ減量への取り組みのおかげです。

目指そう！ごみ減量20%